# 村田一男先生を偲んで

蕨 由美

「村田一男先生が亡くなられたとのことですが、詳しいことご存じですか？」という突然の電話に、体の震えを感じたのは　2021 年夏、8 月上旬の暑い日。それからまもなく、村田先生の奥様から訃報のお葉書が届き、8 月 6 日にご逝去されたとの哀しい現実を受け入れざるをえませんでした。

当会元会長で顧問の村田一男先生は、1973 年の八千代市郷土歴史研究会の創設、市史編纂委員長として 1978 年の『八千代市の歴史』の発刊、1993 年の八千代市歴史民俗資料館（現・郷土博物館）の創立準備など、八千代市の歴史研究と文化財行政に多大な功績を遺されましたが、私個人にとっては最も大切な「郷土歴史の先生」でした。

私は 1988 年、勝田台文化センターでの当会展示「八千代の古道」を偶然見て入会、村田先生を知り、さっそく公民館主催の先生の講演「八千代の中世・正覚院」を聴いてその虜になり、それ以来「郷土歴史研究」がライフワークになりました。

村田顧問を「先生」とずっとお呼びしてきたのは、入会当時、千葉県立高等学校の歴史の教諭でおられたのと、八千代高等学校の歴史研究の部活動で、生徒さんと市内の遺跡発掘調査や民俗調査を実践されてきて､その活動のノウハウをもって私たち市民にも、調査の方法や研究の進め方など、やさしく教え導いてくださったからです。

先生は、フィールドワークでは、好奇心にあふれたキラキラしたまなざしで調査する課題を見つけ、調査対象に対してはチームワークの活動を指導され、そしてその調査報告は、特に見たままの正確さと科学的根拠に基づくことを重要視されていました。

忘れられないのは､『八千代の道しるべ』発刊にむけて 2000 年度に行われた道標と古道の調査活動中、新木戸交差点のガソリンスタンドの側溝下から、重機を使って「血流地蔵尊道」道標の断碑を発掘し、道標の復元設置を成しとげられたことでした。

その後も、当会の活動を指導されるかたわら､2007 年の吉橋大師新四国霊場巡礼の復元、2013 年からの佐倉市志津公民館主催「佐倉道を歩く」の現地講師、そして 2017 年佐倉市岩名天神前遺跡シンポジウム実行委員会委員、同年からの佐倉市直弥の宝金剛寺の石造物調査などにも精力的に携わってこられ、私以上に熱心な「村田先生ファン」の多くが、その活動を共にする喜びをいただいてきました。

冒頭の電話は、志津公民館担当者からの問い合わせで、先生はこの秋の「佐倉道を歩く」の講師を予定されていたからでした。昨夏、神野の板碑調査の後、体調をくずされ、その後も治療を続けながら活動されていましたが、こんなに早く逝ってしまわれるなんて思いもしなかったことです。とても残念で悲しい思いがいっぱいですが、自分で見聞きしたことを科学的に探究するという村田先生の遺された歴史研究へ指針に導かれ、これからも活動していくことで、先生の学恩にお応えしていきたいと思います。